

産禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診察日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00

〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16

IP Tel:058-295-9545

FAX:058-296-3903

E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第99号 2012.6.1

毎月1回発行 産禪洞診療所 松井英介

Independent WHO=WHOは本来の役割を!

松井英介

ミシェル・フェルネ (Michel Fernex) さんがはるばるスイスからやってきました。背の高いダンディーな83歳。背筋がしゃんと伸びています。360人ほどの村に住み、駅から片道2キロの道を歩くくらし。WHO (世界保健機構) 感染症専門委員を15年務め、アフリカでの研究生活も長く、今はパーゼル大学名誉教授。ミシェルさんの話の中で、衝撃的だったのは、原発から30~300km地域のネズミで22世代にわたって遺伝子異常が進行したという研究です。

ミシェルさんは、5月11日から13日にかけてジュネーブで開かれた国際会議「放射線防護に関する科学者と市民のフォーラム」に参加し、会が終わるとすぐ日本に向けて出発。15日から24日まで広島、京都、うらわ、郡山、福島、東京で、講演、懇談、経産省前テント村訪問、各メディアのインタビュー、と駆け抜け、25日の早朝5時の飛行機で仕事の待つパーゼルに帰っていかれました。21日朝7時ころからの金環日食観察が、わずかな息抜きのときだったのかもしれませんが。浦和での肥田舜太郎さんとの対談では、95歳の肥田さんの方が自分より若い、肌を見てごらん!と楽しそうでした。この集いの様子は、次のサイトで見られますので、ぜひどうぞ。

<http://iwj.co.jp/wj/open/archives/16403>



東京・霞ヶ関
経済産業省前の
テント村で



肥田舜太郎さんと



金環日食観察を楽しむ

ミシェルさんが持ってこられたドキュメンタリー映画、ウラディミール・チュルトコフ監督「真実はどこに? —放射能汚染を巡って—」は、各会場で上映され、強いインパクトを与えました。

この作品は、チェルノブイリ原発事故の健康影響がどのように隠されてきたかをわかりやすく描いています。またWHOは、1959年IAEA (国際原子力機関) と「了解なしに情報公開・研究・住民救援をしてはならない」との合意をしているために、2009年に放射線健康局を廃止し、原子力に関する活動の自由を奪われている実態が、中嶋宏さんの証言などで示されます。中嶋さんは1986年から10年間WHOの事務局長を務められました。この作品は、コリン・小林さんたちエコー・エشانジュが日本語版を制作、市民団体くりご野>がユーチューブにアップしました。以下のアドレスをご覧ください。

<http://www.youtube.com/watch?v=ory0rs0y6LI>

ジュネーブと近隣フランスの市民・農民・医師・科学者たちは、5年前から毎日WHO本部前でデモを行っています。彼らのスローガンは、“Independent WHO=WHOは本来の役割を!”